野外のダニによる感染症に注意！

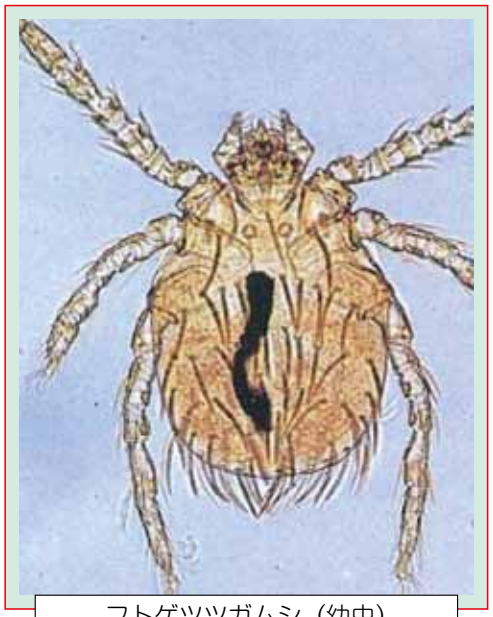
今年、野外にいるダニが原因の新たな感染症〔重症熱性血小板減少症候群（SFTS)〕が国内で発生し、ダニによる感染症に注目が集まっています。

日本では、以前から「ツツガムシ病」や「日本紅斑熱」などのダニ（ツツガムシ類、マダニ類）による感染症が知られており、西多摩地域でも「ツツガムシ病」の発生が毎年報告されています。草むらや山林などでは、ダニに咬まれないように注意しましょう。

ツツガムシ病とは

病原体（リケッチア）を持ったツツガムシに人間が吸着（刺咬）されることによって感染する感染症です。

秋から初冬、春から初夏にかけて多く発生し、毎年全国で400人前後の患者が報告されています。西多摩保健所管内でも昨年３件発生しました。



フトゲツツガムシ（幼虫）
体長0.2～0.3mm

ツツガムシとは

野外にいるダニの一種で、草むら、藪、畑、山林、河川敷などに生息し、野ネズミなどにも寄生しています。

人に吸着するような性質を持っているのはタテツツガムシ、フトゲツツガムシなどです。

これらのツツガムシの一部が病原体を持っています。

感染のしかたと症状

ツツガムシに吸着されても痛みや痒みを感じないことが多く、吸着されたことに気づきにくいのですが、その部位はやがて直径１cm程度の刺し口になることが多いとされています。

吸着後、５日～14日間の潜伏期間を経て発熱やのどの痛み、リンパ節の腫れ、倦怠感などの症状が現れ、発熱後数日すると全身に発疹が現れます。

ツツガムシ病の初期症状は、風邪の症状に似ているため注意が必要です。

なお、人から人へと感染することはありません。

ツツガムシによる刺し口

早期発見と治療

ツツガムシ病は重症化する例もあることから、早期の受診と診断が重要です。

身体に「刺し口」がある場合や、草むら、藪、畑、山林、河川敷等へ立ち入った後５日～14日くらい経過して発熱や発疹が現れたら、すぐに医療機関で受診しましょう。その際、医師に「草むら等に入った、刺し口がある」など、経過や状況を必ず伝えましょう。

予防方法

野外に生息するダニが人の身体に付着することが感染の第一歩になります。

そのため、ダニが身体に付着しないようにすることが予防につながります。

★草むら、藪、河川敷などに立ち入る際には長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、出来るだけ肌の露出を避けましょう。

★直接地面に座らないように、レジャーシート等を敷きましょう。
また、首にかけるタオルや脱いだ上着などは、直接地面に置いたり、木に架けたりせず、バックなどにしまいましょう。

★防虫スプレーも効果的です。

★車や自宅に入る前に、服などをはたきましょう。

★家に帰ったら、早めに入浴して身体をチェックし、服も洗濯しましょう。

これらの予防方法は、野外に生息するマダニなどによる感染対策にも効果的です。

マダニ類と重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

マダニ類もツツガムシ類と同様に、野外に生息しているダニですが、ツツガムシ（体長0.2mm～0.7mm位）とは異なり、比較的大型（吸血前の成虫で１mm～５mm位、幼虫は0.7mm位）で、肉眼でも見ることができます。

SFTSとは、病原体（SFTSウイルス）を持った一部のマダニ類に咬まれることによって起こる感染症です。

主な症状は、発熱と消化器症状（嘔吐、下痢など）などで、重症化すると死亡することもあります。

日本でも今年初めて感染者が確認され、平成25年10月９日時点での患者数は32人です。

西多摩地域では、これまでSFTSの報告はありませんが、マダニは広い範囲で生息しています。十分に注意しましょう。

フタトゲチマダニ（成虫、幼虫）